

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 筑西市立上野小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：1学年～6学年 人数：全校児童95名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <u>教科名</u> (体育) ② <u>行事名</u> (協和特別支援学校とのリモートボッチャ大会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を実施することにより、本県オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの普及・促進を図るとともに、スポーツ機運の醸成を図り、児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 パラスポーツであるボッチャという競技を知り、パラスポーツへの関心を高めるとともにインクルーシブな共生社会への担い手となる資質を育てる。この事業をSDGsの3「すべての人に健康と福祉を」16「平和と公正をすべての人に」を意識させる。
5 取組内容	〇11/25 ボッチャ体験 1回目 ・低学年(1・2学年)「楽しくやろうターゲットボッチャ」 ・中学年(3・4学年)「ボッチャを体験しよう」 ・高学年(5・6学年)「ボッチャを体験しよう」 各ブロックのテーマのもと、ボッチャの知識や技能の習得のため、ルールや対戦の仕方を茨城県ボッチャ協会の方から指導を受ける。 〇11/30 ボッチャ体験 2回目 ・低学年(1・2学年)「楽しくやろうターゲットボッチャ」 ・中学年(3・4学年)「ボッチャを体験しよう」 ・高学年(5・6学年)「ボッチャを体験しよう」 各ブロックのテーマのもと、奥の深いボッチャの魅力について茨城県ボッチャ協会の方から指導を受ける。 〇12/20 本校3学年と協和特別支援学校3・4学年とのリモートボッチャ大会 ・各学校にボッチャのコートをつくり、各学校で赤組と青組に分かれる。 ・試合の様子をオンラインで中継する。 ・協和特別支援学校3・4学年5チーム、上野小学校3チームが交互に投

げ、1試合ずつ得点を加算していく。
 ・試合が終わった後、双方の赤青の得点を合わせて優勝チームを決定する。

6 主な成果

【事前アンケート】

- ・ポッチャをやったことがある。 3%
- ・パラリンピックでポッチャの競技を見たことがある。 31%

【ポッチャ体験】

・楽しくやろうターゲットポッチャ（1・2学年ブロック）



・ポッチャを体験しよう（3・4学年ブロック）



・ポッチャを体験しよう（5・6学年ブロック）



【事後アンケート】

- ・ポッチャという競技が分かった。 100%
- ・ポッチャをやってみて楽しかった。 100%

【考察】

事前アンケートでは、ポッチャを体験したことがある児童は3%であり、ほとんどの児童がポッチャという競技を知らなかった。「誰にでもできる競技である」ことを講師の先生方からお聞きし、「簡単なのかなあ」と思っていたが、やってみると以外に難しく「奥が深いスポーツなんだ」という感想も聞かれた。

【協和特別支援学校とのリモートポッチャ大会】



協和特別支援学校事前準備



ICT支援員さんもお手伝い



上野小の司会で進行します



協和特別支援学校の時は画面をみて応援します。



上野小の番です。赤組も青組も一生懸命です。



赤組、青組の点数を合算します。今回は赤の勝利でした。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

「パラスポーツであるボッチャという競技を知り、パラスポーツへの関心を高めるとともにインクルーシブな共生社会への担い手となる資質を育てる。」というねらいにもあるように、まず、ボッチャという競技を知ることから始めた。それには、専門家を学校に招聘し、発達段階に応じてボッチャの楽しさを味わえるようにした。低学年ではターゲットボッチャを、中学年以上からは正式なボッチャのやり方を指導していただき、競技について知り、ゲームを通して難しさも知ることができた。

本校の3学年は協和特別支援学校の3・4学年と交流及び共同学習を実施している。9月には1回目として、リモートで自己紹介や学校案内クイズなど画面を通して行った。12月は2回目の交流として、ボッチャを通して交流することにした。実践においては、学校間対抗ではなく、学校内で赤組、青組に分かれて対戦すること、相手校がプレイしているときは画面を通して、応援することなどを工夫した。



手作りのトロフィ

リモートでの対戦であったが、両校の子供たちは白熱したゲームに大変盛り上がっていた。上野小学校の児童は協和特別支援学校にも手作りのトロフィを作ってあげて、優勝した青チームへ授与することができた。このようなことから、インクルーシブな意識を醸成することができた。今後も協和特別支援学校との交流会では、ボッチャ大会を続けていきたいと考えている。



上野小学校が司会進行



楽しいボッチャ大会でした

8 主な課題等

オリンピック・パラリンピックのムーブメントをこれからも続けていくには、本校と協和特別支援学校のボッチャ大会のように毎年開催するなど計画的な取り組みが必要であると考えます。

9 来年度以降の実施予定

協和特別支援学校との交流及び共同学習において、毎年、ボッチャ大会を実施する予定である。今後は「CHIKUSEI SUPER BOWL」などと名称を考えて行う計画をしている